



# 第61回 北大祭開催

来場者1万人増 前年比



6月7日から9日にかけての3日間、第61回北大祭が「+1(プラスワン)」のテーマのもと開催された。来場者は昨年を1万人上回り、3日間で延べ約10万人。留学生を含む学生らによる模擬店のほか、YOSAKOIソーランをはじめとするイベントや各学部・学科の企画などが行われた。

## 北大祭特別号

<編集・発行>  
北海道大学新聞  
編集部

<URL>  
hokudashinbun.com  
(お問い合わせ・情報提供もこちらから)

次の発行予定は8月

## CONTENTS

- サイエンスラボ、科学の楽しさを伝える ……2面
- 福岡県人会、自動調理器導入 ……2面
- 模擬店グランプリ結果 ……3面
- フォトコン作品紹介 ……5面

# NHK「なつぞら」 夕見子、北大祭に登場



ステージで話している福地さん

NHKにて現在放送中の連続テレビ小説「なつぞら」に出演している福地桃

子さんが、北大祭2日目、体育館横特設ステージに登場した。なつぞらは北海道

の十勝地方が最初の舞台。広瀬すずさん演じるヒロイン、奥原なつがのちに上京し、アニメーションの世界に挑む姿を追ったドラマだ。福地さんが演じるのは、なつと姉妹のように育つ柴田夕見子。作中で夕見子が本学に合格したことから、同イベントが開催された。昼過ぎという暑さが感じられる時間帯ながらも、会場には1000人以上が集まっ

た。イベントでは様々な企画が行われ、本学にまつわるクイズや広瀬さんからのビデオレターの上映、福地さんのドラマ撮影での裏話など、ファンからドラマを見ていない人まで幅広く楽しめる内容となった。また、イベント前に、模擬店グランプリ常連の「めんちかちゅ」などの模擬店を回ったり、学内の他のイベントに参加したりしたという福地さん。本学低温科学研究所の超低温室にも入り、「タオルを凍らせた」「息が苦しくなった」など体験した感想を述べた。福地さんへの質問コーナーでは、最近の趣味が料理であることを明かし、「留学生のコーナーで食べたパエリアを家で作り



会場には1000人が集まり福地さんにカメラを向けていた

たい」と話した。終演後に福地さんは「予想よりもはるかに多くの方に来てもらい、また現役北大生からもなつぞらを見ていると声をかけてもらい、とても嬉しい日になった」とコメント。企画・運営を担当した、北大祭事務局の瀬古拓夢さんは「福地さんに楽しんでもらえたのがなにより」と安堵した。なお、同イベントの様子をまとめた動画がNHK札幌放送局のホームページ内で公開中。

# 会場は熱気に包まれる YOSAKOIソーランイベント開催

事務局・縁がタッグ

北大祭初日である6月7日、高等教育推進機構前特設ステージで「北大祭大乱舞」YOSAKOIソーランイベントが開催された。同イベントは北海道大学祭全学実行委員会(北大祭事務局)と本学のYOSAKOIソーラン

チーム、北海道大学・縁(縁)とが共同で企画したものであり、開催は今回が初。午後5時30分からのオープニングでは、同イベントのコンセプトについて「非日常をつくりだす」と説明。その後来場者らに対し、イベントの最初と最後に行われる「総踊り」への参加を呼びかけた。イベントには縁や札幌創成高等学校YOSAKOI同好会をはじめとする約10団体に参加。各団体の迫力ある音楽や演舞を前に来場者らは拍手や歓声で盛り上がった。午後8時ごろからは総踊りが行われた。縁のメンバーが「立ち上がってください」と呼びかけると、



総踊りの様子

来場者らは立ち上がり、音楽に合わせて簡単な踊りに参加。会場は一体感と熱気に包まれた。北大祭のサイトで同イベントを知ったという札幌市在住の女性は「素晴らしい。活気があって圧倒された」と満足げに話した。

# 大野池 鮮やかに照らされ



2、3日目の午後7時から、金葉(こんよう)祭実行委員会により大野池のライトアップが実施された。秋にイチヨウ並木のライトアップを行う金葉祭実行委が大野池で実施するのは初の試み。昨年までの北大祭事務局の企画がなくなったことにより、金葉祭実行委が引き継いだ形となった。大野池は木がまばらに生えているため、ライトの配置に頭を悩ませたという。事前の点灯テストで、木が最も映えるように光を変える

タイミングの調節を行うなどして、問題を解決した。訪れた人からは、「色が混ざった瞬間がキレイ」「もう少しライトを増やしてほしい」などさまざまな声がかれた。計画当初はイチヨウ並木をライトアップする予定だったが、日程に余裕がなく、安全面への配慮が間に合わないことから許可が下りず、予定を変更することになった。代表の坂之上徳博さんは「来年の北大祭ではイチヨウ並木をライトアップしたい。今回得た経験は、秋に行う金葉祭でも活かしていきたい」と今後に向け抱負を語った。

# 北大の「今」を発信中!



ウェブサイト  
(THE MAINSTREET)



Twitter  
(@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET

Powered by 北海道大学新聞編集部

# 福岡県人会 自作機械で博多ラーメン調理 人手不足に対応



毎年恒例の福岡県人会による博多ラーメンの模擬店。調理場で麺を茹でているのは人、ではなく機械だ。同会は今年、ラーメンの調理過程に初めて自動調理器を導入した。



福岡県人会の自動調理器

セットして調理器のスイッチを押すと、自動で熱湯の中へ。40秒間、上下運動を繰り返して麺を茹でる。茹で終わると持ち上がり、ここからは人の出番だ。湯切りして、特製スープと合わせ、最後にネギなどをトッ

ピンゲ。こだわりのラーメンが出来上がる。この機械を開発したのは同会の代表、吉富翔太郎さん。人手不足への対応や調理を効率化するため開発を

## ロケット燃焼実験成功

ロケット公開燃焼実験が3日目、工学部棟前広場に行われた。主催は本学工

始めた。電子回路などを自ら製作し4年かけ作り上げたという。同会の模擬店ではこのほか、接客用の4足歩行ロボットも登場していた。

たのは一昨日か三日前」と伝えられると笑いが起こったり、一体となってカウントダウンをしたりと、盛り上がる場面もしばしば。燃焼が始まると、火災とともにシューという轟音が響き、約20秒間の燃焼が終了した際には、大きな拍手が起

## 戦前の北大生の生活を知る 文書館特別展示

本学大学文書館(文書館)では北大祭期間限定の特別展示が行われた。企画名は「北大生の御用達!」

新聞広告あれこれ1926-1945。文書館では本紙の前身である北海道帝国大学新聞を所蔵しており、その中の広告を抜き出すと戦前の学生生活が分かるの



展示されている新聞広告は、本学付近の書店や札幌駅周辺の百貨店、狸小路の飲食店のもなど多岐にわたる。広告が展示されている店舗の中には、現在でも残っているものも含まれていた。新聞広告のほかに北大付近の飲食店で撮影された学生の集合写真や、恵迪寮生の領収書などが展示されており、複数の資料から当時の北大生の生活をうかがえる展示となっていた。

## 教養棟展示 活動成果をアピール



好みの一字を書いてもらう来訪者の姿もみられた。副部長の井上耀介さんは「多くの人に作品を見ていただけて嬉しい。また機会があれば、より多くの質の高い作品を展示したい」と語った。

多くの団体が日頃の活動の成果をアピールする機会となった。



われた。本学応援団が高等教育推進機構玄関の屋根に上り、恵迪寮歌「都ぞ弥生」、続いて寮内で代々伝わる「ストームの歌」を披露した。会場には学生のみならず、本学OB・OGや市民も大勢来場。肩を組んで寮歌を歌い上げたり、「ストームの歌」に合わせ竜巻を模すように走り回ったりと、北大祭の終わりを華々しく飾り上げた。

工作体験教室「カルチャースクール」が、第二体育館で3日間にわたり開催された。企画は北大祭事務局で、羊毛マスコットとアイヌ文様のキーホルダーの制作体験を実施。工夫を凝らしたイベントは好評を博した。



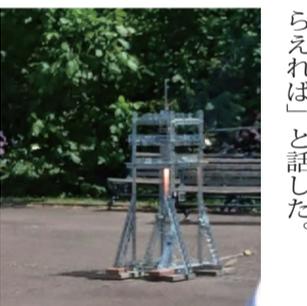
## カルチャースクール 北海道の文化を知るきっかけに



## サイエンスラボ 科学の楽しさを味わう

2、3日目の両日、第二体育館では「サイエンスラボ」が行われた。会場には3つの外部団体がブースを設け、科学の楽しさや魅力を伝えた。学習塾を運営するパシフィックセミナーによる理科実験教室は、多くの親子連れで賑わった。内容は煮干しの解剖・新聞ちぎりコンテスト・ペットボトル空気砲の3つ。煮干しの解剖では、始めに煮干しやレポート用紙が入ったキットが配られ、講師のレクチャーによって作業を進めた。参加者は、30分程度で脳みそ・胃袋・エラなどを見つけることができた。最後は取り出した臓器や骨をレポート用紙に貼り、それぞれの名称を記入して実験終了となった。実験に参加した平山勝運(しようん)くん(7)は、「楽しかった。また家でもやってみたい」と嬉しそうに話した。

煮干しの解剖の様子  
サイエンスラボの企画に以前携わっていたという北大祭事務局OBは、「大学祭は本来学生主体で行うもの。しかし、外部の方とコラボすることで学生にはできないことも提供できる」と話す。その言葉通り、今回も多く参加者が他の展示や模擬店とは異なる楽しさを味わった。



北大祭期間中、高等教育推進機構(教養棟)内では文化系サークルなどによる展示・発表が行われた。多くのサークルが日頃の活動の成果をアピールする機会となった。

書道部は書道作品の展示会を行った。完成には数カ月かかる作品があることにくわえ、北大祭での展示会は今回が初めてであったため、企画・準備が大変だったという。また、部員がポストカードに字を書いてプレゼントするというブースも設けられ、自分の名前や

北大祭の締めめの行事として恒例となっている「一万人の都ぞ弥生」が今年も開催  
モザイクアートも登場  
また、本イベントでは応援団による大型の製作物が毎年披露されており、今年は巨大なモザイクアートが飾られた。モザイクアートを構成する1枚1枚は1年生から募ったといい、昨年の製作物である巨大ドラゴンに負けず劣らず人々の注目を集めた。

## 情報求む

話題の学生・教員、ユニークな取り組み——  
北大に関するあらゆる情報を募集しています

メール⇒hokudaishinbun@gmail.com またはウェブサイトのcontactへ

※いただいた情報を活用できない場合もありますので、あらかじめご了承ください

THE MAINSTREET



Powered by 北海道大学新聞編集部

# 模擬店グランプリ発表

## 法学部知財ゼミ「めんちかちゅ」が8連覇

| 賞         | 団体名                | 店名                   |
|-----------|--------------------|----------------------|
| 総合1位      | 法学部<br>知的財産法ゼミ     | めんちかちゅ               |
| 2位        | 北大祭<br>けずりいちご      | けずりいちご               |
| 3位        | MARCO<br>CLUB      | 油そば 圓子屋              |
| 4位        | 吉田智樹ランサ            | イカ焼き                 |
| 5位        | アカペラサークル<br>NoSeRA | のび～る<br>チーズハットグ      |
| フレッシュマン1位 | 1年11組              | 映えソーダ                |
| フレッシュマン2位 | 1年45組              | たこ八                  |
| IFF1位     | INDIA              | INDIAN CURRY<br>SHOP |
| 肉料理部門1位   | EME                | トルコアイス&<br>ケバブ       |
| 揚げ物部門1位   | 法学部<br>知的財産法ゼミ     | めんちかちゅ               |
| ガッツリ部門1位  | MARCO<br>CLUB      | 油そば 圓子屋              |
| デザート部門1位  | 北大祭<br>けずりいちご      | けずりいちご               |



本学法学部の知財ゼミが出店しためんちかちゅが揚げ物部門1位並びに総合1位を勝ち取った。めんちかちゅでは揚げたてのメンチカツを1つ150円で提供し、取材時も来店客が長い列を作るなど大いに繁盛を見た。今回の受賞で8年連続の総合1位。店員は「嬉しさもあり、連覇のたすきを繋ぐことができた安心

メインストリート沿いに立ち並ぶ毎年恒例の模擬店。そのグランプリが最終日に発表された。総合1位を受賞したのは法学部の知的財産法ゼミ(知財ゼミ)が出店した「めんちかちゅ」。これで8年連続の総合1位となった。正午過ぎには表彰式も行われ、受賞した模擬店の代表者が感想や今後の抱負を述べた。(一部の受賞模擬店は個別記事で掲載)

**総合1位・揚げ物部門1位 めんちかちゅ**

「連覇のたすき繋いだ」

「北大祭けずりいちご」の運営する模擬店「けずりいちご」が、昨年に引き続き総合2位とデザート部門1位を受賞した。その秘訣は毎年、売り方に改善を重ねていることだ。

けずりいちごは凍らせた苺を砕き、上に生クリームをのせたもので、350円。

もあつた」と受賞時の感想を話す。受賞の理由について、「まず、安くて手軽」という点を挙げる。また、「ゼミの4年生から3年生への世代交代が上手くいっている。年々、少しずつ効率化・質の向上がなされていると思う」と、長年に渡り1位に

### 進化を続け2年連続

君臨し続ける秘訣を語った。今年は最終日昼の時点で約6000個売り上げる大繁盛。「今年は天気も良く、場所もお客さんが来やすい場所を確保できた」と好調ぶりをのぞかせ、「(後輩には)来年は9連覇を目指してほしい」と次回の北大祭に向けた意気込みを語った。

**総合2位・デザート部門1位 けずりいちご**



昨年と同様に商品はオリジナル容器に入れ、宣伝用のTシャツ、のれん、のぼりも用いてブランド化を図った。さらに、昨年客を待たせてしまったことへの反省から、今年は回転率の向上にも注力。店員が疲れず滑らかに作業できるように、商品を作る工程を細かく分けて割り振ったという。結果として、昨年の販売数である5000個弱を上回った。出店者はグランプリの結果について「(多くの人に)2年連続来てもらえて喜ばしい」と述べ、「デザート部門1位は死守したい」と来年に向け意気込んだ。

### 総合3位・ガッツリ部門1位 油そば圓子屋

### 積み上げた評判が奏功



総合3位、ガッツリ部門1位となったのはテニスサークル「MARCO CLUB」の「油そば圓子屋」だ。油そばは一杯250円。年々積み上げた「安い」「美味しい」という評判が、今回の結果に繋がったという。また、普段のサークル活動により生まれたメンバー同士の仲の良さも良い効果をもたらした。良い

若者を中心に幅広く人気を集め、最終日は開店2時間後に完売した。麺部門では一昨年に1位、昨年2位を受賞。出店者は「今年もガッツリ部門1位を取り戻せて本当に嬉しい」と喜びをあらわにした。来年店の運営を引き継ぐメンバーには「伝統を引き継いでほしい思いもあるが、やりたいように楽しんで」と語った。

### 記者も体験

本学の5研究所・センターの一般公開が北大祭2日目に行われ、低温科学研究所もマイナス50℃の超低温保存室の入室体験などを実施した。普段一般に公開していない施設のイベントに多くの人が来場した。

超低温室では南極の氷を保存し、研究に活用している。氷は南極で氷床に穴を開けて、研究者が着用から体験は入室した。

記者も実際に超低温室に入室した。もちろん寒いのが、北海道の寒さを体験している記者(札幌3年目)にとっては、防寒服も相まって「まだ耐えられる」と感じた。

超低温室に入る時が来た。扉を開けた途端、鼻から南極の寒さを感じた。呼吸をするのが難しいうえ、息は真っ白。写真の撮影すら集中できなかった。

ほんのわずかな滞在だったが、長居は危険だと感じた。実際に低温研で働く研究者も、この部屋には長時間留まらず、氷をマイナス20℃の部屋に運んで研究するという。

### マイナス50℃の超低温室体験実施

### 本学低温科学研究所

あけ、削って回収。最深で深さ約3000mに及び、時期に直して72万年前ほどという。マイナス50℃に保つのは氷の性質を変化させないため、研究では氷を調べることで過去の環境の復元を図っている。

「南極(マイナス50℃の世界)を体験しよう」との企画で今回の公開では、来



超低温室には南極の氷が展示されている

## 広告募集

ウェブバナーやPDF紙面の広告を募集しています

メール⇒hokudaishinbun@gmail.com またはウェブサイトのcontactでお問い合わせください

THE MAINSTREET



Powered by 北海道大学新聞編集部

ひょうびょう

# 新聞は縹渺と広がる情報の海を渡る航海図

情報をいつでも何処でも得ることが当たり前の環境になりました。その反面、2020年には44ゼタバイトにもなるといわれている、膨大な情報量と拡散されるフェイクニュースに溺れてしまうリスクが高まりました。新聞は限られた紙幅に専門の記者が何重もの裏付けを取り、校閲のチェックを受け、編集にて取捨選択・優先順位付けが行われてから初めてリリースされます。何かと忙しい現代だからこそ、無駄なく・正確に・迅速に情報を得るために適したメディアです。

2020年度大学入試が大きく変わる!

読解力・思考力・表現力を朝日新聞で。

朝日の記事は  
大学入試出題数  
No.1なのよ。

## 朝日新聞

asahi-sapporo.co.jp



出来るビジネスマンのマストツール

## 朝日新聞 DIGITAL

動画による  
THE 解説が  
面白い

ダブルコースがお得! [購読料] プランによって異なります。

新大学入試では英語4技能が試される  
「使える」英語を身につけるために!!

**AsahiWeekly**  
日本経済と世界をつなぐ読書 2000冊

thejapantimes **alpha**

毎週日曜日配達  
定価:月ぎめ998円(税込)

毎週土曜日配達  
定価:月ぎめ1,132円(税込)

2020年度から新学習指導要領が実施  
アクティブ・ラーニングを新聞で

朝日小学生新聞

朝日中高生新聞

小学生新聞▶毎日、朝刊に配達されます。定価:月ぎめ1,769円(税込み)  
中高生新聞▶毎週日曜日の朝刊に配達されます。定価:月ぎめ967円(税込み)

### ご利用方法

 下記ウェブサイトからがスムーズです。

1度に全てのお試し読みも出来ます。  
お気軽にお申し込みください。

## 朝日新聞札幌中央販売 ホームページ

# asahi-sapporo.co.jp

▶お問い合わせフォームよりお申し込み下さい



朝日新聞デジタルは

# digital.asahi.com



# 北大祭フォトコンテスト作品紹介

北大新聞では今年も「北大祭フォトコンテスト 2019」を実施しました。  
今年は祭を楽しむ子どもたちの写真が寄せられました。ご投稿ありがとうございました。



**AG さん**

コメント：北大祭 2 日目、赤ちゃんも満足の笑みである



**tomoko さん**

コメント：2日続けて北大祭♡